

現場内事故に関するアンケートの集計結果について

(2014年度集計)

2015年11月10日
建設廃棄物協同組合
収集運搬委員会

収集運搬委員会では現場内事故に関するアンケート調査を2015年7月に実施しました。(調査期間2014年4月1日～2015年3月31日)

その結果は次のとおりです。収集運搬委員会ではこの調査を毎年実施し、各組合員で現場内での事故の削減を図るべく安全大会等の資料としてご活用ください。

1. 車両種類

今年度の現場内事故の総数は73件発生しました。(昨年より42件減少)

車両種類別ではコンテナ車の24件が最も多く次いでユニック車の23件の順となります。

2. 年齢別

年齢別では40代が31件と最も多く、次いで30代の22件の順となっており、中年層に事故が多いのが特徴的でした。

3. 経験年数

経験年数では各車両5年以下の経験者が最も多く全体の51%を占めており次いで経験年数が10年以下と若年経験での事故が多く散見されるのが特徴的となっております。

4. 時間帯

時間帯別では午後2時からが16件と最も多かった。

5. 事故の種類

事故の種類では後退時の25件が最も多く、次に現場内移動中の14件、コンテナ脱着作業の9件、クレーン作業の9件、現場入退場時の9件の順となります。

6. 総評

本調査を4年間実施した結果、年齢別では30代、40代、経験年数では5年以下の事故が圧倒的に多く傾向性に変化が見られませんでした。

これは自動車運転の経験はあるものの、中途採用等により中年層からトラックを乗り始める運転手に顕著に現れていますので、重点的に安全教育を実施してください。

昨年と傾向的に変化が見られたのは後退時の事故です。

現場内は絶えず変化しており場所も狭いゆえに発生件数も多くなりました。

特に誘導員による誘導にも関わらず事故を起こした例が数多く散見されますので、もう一度後方確認の方法等の徹底を行ってください。

また、コンテナ脱着作業、クレーン作業等特殊作業の事故が依然として減らないのでこの部門でも重点的に安全教育を実施してください。

昨年より現場内事故は増加しており重大事故の発生は無いものの小さな事故が積み重なり重大事故に発展する恐れがありますので各組合員では引き続き安全教育を徹底され事故削減に努めてください。

7. 事故例

1) コンテナ脱着作業

- ダンプアップのスイッチがショートしたために誤作動し、コンテナアップ操作を行ったところ、脱着操作となり、コンテナ後方の消火栓を破損。
- 倉庫内のコンテナを引き上げる際に引き上げたアームの引っ張った部分が倉庫のシャッターに接触し破損。
- コンテナ脱着中、軽鉄資材の束と車輻に接触。
- コンテナ脱着中、上部配管にアームロールが接触。
- コンテナを引き上げる際コンテナが傾きブロック塀を破損。

2) クレーン作業

- クレーンを完全に下げずに移動中に電線に接触。
- ブームを旋回する際、防犯カメラに接触。
- ブームが頭上の配線に接触。
- 地下駐車場に入る際、シートを屋根に接触。
- フレコンの交換中、フレコンが揺れプレハブの屋根に接触し破損。
- 重量物を荷下ろし中に車輻が横転。

3) 現場内移動中

- 重機と交差の際接触。
- ブームを上げたまま移動し電話線を切断。
- 停車中の乗用車に接触。

4) 後退時・現場内入退場時

- 後退時、照明の支柱に追突。
- 後退時、キュービクルに追突。
- 入場の際、警備の誘導に従って止まっていた車に接触。
- オーバーハングを予測せずに発進しブロック塀を破損。
- 車の切返し中に塩ビ管を破損。
- 夜のため暗く、地中の塩ビ柵をタイヤで踏み破損。

5) その他

- 積み込み作業後、飛散防止シートを装着し荷台から降りる際転落。
- 荷台の上を歩いた際、バランスを崩して地面に転落。
- 大ガラを荷台の上で荷受けする際、うまく収まるよう手を添えたら、ワイヤーが緩み手を挟まれた。

2014年度現場内事故集計表 事故件数 73件

